

令和5年度
事業評価書

～令和7年度予算編成に向けて～

令和6年10月15日

藤枝市議会決算常任委員会

藤枝市は本年、市制施行 70 周年、そしてサッカーのまち 100 周年となる記念すべき年を迎えました。本市議会といたしましても、次の 10 年、さらに次の 100 年への未来に向けた様々な施策について、力を合わせ推進していく所存です。

さて、本決算常任委員会に付託されました「令和 5 年度藤枝市一般会計歳入歳出決算」及び「令和 5 年度藤枝市病院事業会計決算」については、11 名の委員により、去る 9 月 18 日から 4 日間にわたり慎重な審査を重ねた結果、全会一致で認定すべきものと決定し、本会議でも認定されました。

併せて、全事業総点検シートを活用いたしまして、1,000 を超える事業から、特に慎重な審査や事業評価を要する事業として、委員が抽出した 18 事業に対して、執行部に調書を提出していただき事業評価を行いました。決算審査の大きな意義である「事業評価」の実施により、妥当性・有効性・効率性の視点を持ち、各事業の市民生活等に対しての貢献度、課題解決に結びついたかを測る役割を果たせたものと感謝しております。

つきましては、審査内容と判定結果を調書にまとめ、全委員の意見が一定の方向でまとまった 15 事業について提議させていただきますので、令和 7 年度予算編成に活かされますよう、よろしくお願い申し上げます。

令和 6 年 10 月 15 日

藤枝市議会決算常任委員会

委員長	深津 寧子
副委員長	山本 信行
委員	さとうまりこ
委員	寺田亜記子
委員	山川 智己
委員	八木 勝
委員	神戸 好伸
委員	山根 一
委員	岡村 好男
委員	植田 裕明

◆令和5年度分事業評価対象事業(15事業)

No.	部局名	課名	事業名
1	総務部	総務課	非核平和推進事業費
3	企画創生部	広報課	戦略広報推進費
4	市民協働部	協働政策課	文化センター管理運営費
5	市民協働部	市民相談センター	社会を明るくする運動補助金
6	こども未来応援局	こども課	れんげじスマイルホール運営費
8	こども未来応援局	こども発達支援センター	発達支援事業費
9	教育部	生涯学習課	はたちの集い開催経費
10	教育部	教育政策課	適応指導教室等活動事業費
11	教育部	教育政策課	通級指導教室活用事業費
12	産業振興部	企業立地戦略課	食と農アンテナエリア形成推進事業費
13	産業振興部	農林基盤整備課	有害鳥獣捕獲事業費
14	産業振興部	農林基盤整備課	竹林対策事業費
15	産業振興部	農林基盤整備課	現年発生単独災害復旧事業費(市単)
16	基盤整備局	道路課	道路維持補修費
18	都市建設部	住まい戦略課	空き家等対策推進事業費

※3つ欠番があるのは、委員会内での審議の結果、評価書から除外となったため。

事業名： 非核平和推進事業費	担当： 総務部 総務課	決算書ページ P. 124～125	2 款 1 項 5 目	備考No. 7(1)
		市政報告書ページ P. 33		

1 令和5年度 事業内容及び目的(数値目標があれば記入) 「非核平和都市」を宣言する本市において、核兵器のない世界の実現を進める一歩として、戦争や核兵器の怖さ、悲惨さを周知し、市民の平和への意識の高揚を図る。 (1)非核平和推進事業費補助金 非核平和を推進するための事業を実施する団体等への補助金交付 (2)中学生の広島平和記念式典派遣事業 若い世代に戦争の怖さや核兵器の悲惨さを直に知ってもらい、その体験を広く市民に広めるため、広島平和記念式典へ市内中学生を派遣。 (3)非核平和に関する講演会 被爆者の方や被爆2世の方から、戦争の怖さや核兵器の悲惨さを中学生に伝えてもらい、永く平和の大切さや尊さを学ぶ講演会の実施。		
2 事業実施期間 —	令和5年度 事業開始月及び終了月 令和5年4月～令和6年3月	
3 令和5年度予算額(円) 1,240,000	令和5年度決算額(円) 1,099,645	不用額(円) 140,355
4 令和5年度 進捗状況及び成果 (1)非核平和推進事業費補助金 非核平和を推進するための事業を実施する4団体(5事業)へ補助金を交付 ・事業内容 原水爆禁止平和行進、写真展、スライド上映会、後援会 など (2)中学生の広島平和記念式典派遣事業 ・派遣日 令和5年8月5日(土)～6日(日) ・対象者 市内中学生 10名(公立中学校 9名、私立中学校 1名) (3)非核平和に関する講演会 ・実施日 ①令和5年10月18日(広幡中) ②令和5年11月8日(藤枝中) ・講師 静岡県原水爆被害者の会 会長		
5 令和6年度末までの事業計画 引き続き、核兵器の悲惨さを伝え、市民の平和への意識を高めるための取組を実施 (1)非核平和推進事業費補助金 市内4団体及び個人1名への補助金交付決定済、事業実施後に交付予定 (2)中学生の広島平和記念式典派遣事業 8月5日～6日に、中学生11名を広島市へ派遣。派遣中学生は、藤枝市戦没者追悼・平和祈念式典に参加し、代表生徒2名が派遣の感想を発表した。 (3)非核平和に関する講演会 10～11月に、市内2中学校(高洲、西益津)において、被爆者2世による講演予定		

以下、決算常任委員会 決算審査用
● 事業における課題

中学生の平和記念式典派遣事業については、中学生を広島市の平和記念式典に派遣しているが、参加した中学生の経験がどのように他の生徒や市民へ共有されているか、より多くの生徒や市民にこの経験を知っていただくかが課題。

市民参加の促進については、平和意識を高めるための取り組みが必要で、より幅広い参加を促す新しい活動形式を検討する必要がある。

被爆者やその家族の高齢化により、今後この活動をどのように継続するかが課題。

● 令和7年度 予算編成に向けて

中学生の広島平和記念式典派遣事業は重要であり、市内すべての中学校に参加依頼は継続していただきたい。また、もっと多くの生徒が参加できるような方法を検討いただきたい。さらに、被爆者の高齢化が進む中、語り部の育成や講演内容のデジタルアーカイブ化が急務であり、被爆体験を広く市民や若年層に伝えるために、オンライン講演会やVR体験、SNSを活用した広報活動など、新たな技術導入も検討されたい。

事業名： 戦略広報推進費	担当： 企画創生部 広報課	決算書ページ P. 128～129	2 款 1 項 9 目	備考No. 1(3)
		市政報告書ページ P. 41～42		

1 令和5年度 事業内容及び目的(数値目標があれば記入)		
【ホームページ更新業務】 速報性と情報共有性に優れた市ホームページを情報発信の要とし、本市の魅力や市政情報などを積極的に発信した。 ＜R5年度目標値＞ページ閲覧数 4,715,000件 訪問数 1,825,000件		
【ラジオ番組発信業務】 本市の魅力を県内に広くPRするため、静岡FM放送に委託しラジオ番組を制作し放送した。また、近隣地域からの来訪のきっかけづくりに、2つのコミュニティFMの番組内でイベント等の情報を発信した。		
【パープルビジョン発信業務】 乗降客の多いJR藤枝駅構内において、市政情報やイベント情報を発信した。		
2 事業実施期間	令和5年度 事業開始月及び終了月	
—	令和5年4月～令和6年3月	
3 令和5年度予算額(円)	令和5年度決算額(円)	不用額(円)
13,176,000	13,033,044	142,956
4 令和5年度 進捗状況及び成果		
【ホームページ更新業務】 市民が知りたい情報を閲覧できるよう、日々、担当課が中心となって最新内容とするため更新作業を行った。 ＜R5年度実績値＞ページ閲覧数 5,749,489件 訪問数 3,016,185件		
【ラジオ番組発信業務】 ＜静岡FM放送(K-MIX)＞年間52回、毎週金曜日に放送を行った。 ＜FM島田＞毎週月曜～金曜日に、1日2回放送を行った。 ＜シティエフエム静岡＞毎週木曜日に、1日1回放送を行った。		
【パープルビジョン発信業務】 時期に合わせたイベント情報などを大型ビジョンに表示し、情報発信した。併せて、民間企業の広告放映により、収入も確保した。		
5 令和6年度末までの事業計画		
本市が取り組む施策を、わかりやすく市民に届けるため、引き続き、ホームページやパープルビジョン、SNS等様々な媒体を駆使し、情報を発信していく。今後も、「どんなにより施策を行っていても、知られていなかったらやっていないのと同じ」であることを念頭に置き、全庁を挙げての情報発信に努める。特に、市民が知りたいときに確実に情報を取得できるよう、市ホームページの更新頻度を高め、情報発信を強化していく。		

以下、決算常任委員会 決算審査用

● **事業における課題**
ホームページの閲覧数や、訪問数は目標を大きく超えたことは評価したい。市民の皆さまから、内容の質や検索しやすさが不十分との声もあり、見やすいホームページの構築が課題である。
また、ラジオ番組やパープルビジョンについては、情報提供の有効性の検証が困難であることが課題である。

● **令和7年度 予算編成に向けて**
市ホームページの全体的な操作性の見直しや検索機能の改善、AIを活用した市民サポートの導入などを検討されたい。
また、ラジオ番組発信業務については、ポッドキャストなどで継続的に視聴できるようにするなど検討されたい。
さらに、パープルビジョンについては、設置位置も含めて効果的な情報発信となるよう検討を進められたい。

事業名： 文化センター管理運営費

担当： 市民協働部
協働政策課

決算書ページ P. 290～291

10 款 4 項 9 目 備考No. 1 (2)

市政報告書ページ P. 388～389

1 令和5年度 事業内容及び目的(数値目標があれば記入)

駅前地区という利便性の良い立地条件を活かし、市民課窓口業務や市民の文化活動拠点としてホールや会議室の貸館業務を行っている。

- ①窓口業務 ・各種届出及び証明書の発行業務
・市税の収納業務
・市営駐車場回数券・市のごみ袋・藤枝の水の販売業務
- ②貸館業務 ・ホール、小ホール、第1～5会議室の貸し出し

2 事業実施期間

—

令和5年度 事業開始月及び終了月

令和5年4月～令和6年3月

3 令和5年度予算額(円)

27,437,000

令和5年度決算額(円)

26,955,524

不用額(円)

481,476

4 令和5年度 進捗状況及び成果

駅前地区という利便性の良い立地条件を活かし、市民課窓口業務や市民の文化活動拠点として、ホールや会議室の貸館業務を行っている。

- ①窓口業務 証明書受付件数 10,066件(前年度:12,286件)
※マイナンバーカードの利用等が浸透し始め、約2,000件の減少。
※「書かない窓口」システムの運用により、窓口業務の効率化を図っている。
- ②貸館業務 施設(貸館)利用人数 47,395人(前年度:39,699人)

5 令和6年度末までの事業計画

・昭和52年の開館から47年が経過している施設を安全で安心して使用するために、施設マネジメント計画推進事業費により、改修工事設計業務委託を実施する。
屋上、外壁、消防設備(ポンプ・自家発電設備)、空調設備、昇降設備の改修工事設計業務

以下、決算常任委員会 決算審査用**● 事業における課題**

駅周辺の優れた立地条件にありながら、文化センターのホール、小ホール、各会議室の利用率は35.7%台と低利用率となっている。
室内が暗く、トイレも含めて環境整備が課題となっている。

● 令和7年度 予算編成に向けて

建物の老朽化の課題と、窓口業務、貸館業務の必要性を含めて是非の検討を求めたい。
また、今後の建て替えについては、中心市街地の周辺環境とも兼ね合わせ、関係部署が連携しながら、より大胆な計画検討をされたい。

事業名： 社会を明るくする運動補助金	担当： 市民協働部 市民相談センター	決算書ページ P. 138～139	2 款 1 項 16 目	備考No. 3 (2)
		市政報告書ページ P. 70		

1 令和5年度 事業内容及び目的(数値目標があれば記入) 市民が犯罪や非行の防止及び罪を犯した者の更生について理解を深め、犯罪や非行のない社会を築くため、「社会を明るくする運動藤枝地区推進委員会」が行う活動経費に対し、補助金を交付する。 当団体は、令和2年度まで自治会・町内会からの寄付によって活動を行ってきたが、自治会への加入率が下降していく中、集金にかかる負担軽減を検討し、令和4年度から活動費を自治会からの寄付に頼るのではなく、必要額を精査した上で、市が予算化し推進委員会に対し補助することとした。 【構成員】 藤枝市長、教育長、自治会連合会代表者、保護司会役員、更生保護女性会代表、協力雇用主会代表		
2 事業実施期間 令和4年～	令和5年度 事業開始月及び終了月 令和5年4月～令和6年3月	
3 令和5年度予算額(円) 2,500,000	令和5年度決算額(円) 2,500,000	不用額(円) 0
4 令和5年度 進捗状況及び成果 社明団体活動費 1,301,430円 保護司会800千円・更生保護女性会350千円・協力雇用主会150千円を各団体に交付し、団体ごとに更生保護に関わる研修や、学校との連携活動などを行うことで、周知を図ることができた。 広報宣伝活動費 1,045,997円 強化月間における街頭啓発、地区のふれあいまつりでの啓発、社明だよりの発行、小中学生を対象とした標語や作文募集などの活動を通し、世代を関係なく、活動への理解及び周知を図ることができた。 視察研修費 97,898円 静岡刑務所 その他 54,675円 事務費、郵便料等 合計 2,500,000円		
5 令和6年度末までの事業計画 コロナ禍が明け、会員への各種研修や啓発活動等を再開したが、近年の物価や燃料費等の高騰により事業にかかる経費が影響を受け、運営を圧迫していることから活動費の増額要望があり、予算額を2,800千円に増額し、補助金を交付する。		

以下、決算常任委員会 決算審査用
● 事業における課題

市の補助金によって展開され、自治会業務の大幅な軽減となった事は評価したい。一方で、近年の物価や燃料費の高騰による事業費の圧迫などが課題である。また、保護司会や更生保護女性会など団体の高齢化や会員減少なども課題となっている。

● 令和7年度 予算編成に向けて

犯罪や非行の防止、更生は非常に重要で、保護司制度や、更生保護団体の活躍なしでは成り立たない。物価高騰の折、増額を検討し、継続を求めたい。

事業名： れんげじスマイルホール運営費

担当： こども未来応援局
こども課

決算書ページ P. 174～175

3 款 3 項 2 目

備考No. 2 (3)

市政報告書ページ P. 137～138

1 令和5年度 事業内容及び目的(数値目標があれば記入)

藤枝ならではの”スポーツと健康づくり”の子育て支援施設として、次代を担うこども達の”からだづくり応援施設”をコンセプトに、運動の習慣づけと強い身体づくりをサポートするため、こども達がいろいろな遊具で自由に遊べる「プレイゾーン」とこども達や親子等が各種運動プログラムに参加できる「スポーツゾーン」で構成される、全天候型屋内運動施設を運営した。

2 事業実施期間

H28～

令和5年度 事業開始月及び終了月

令和5年4月～令和6年3月

3 令和5年度予算額(円)

53,420,000

令和5年度決算額(円)

52,973,472

不用額(円)

446,528

4 令和5年度 進捗状況及び成果

令和5年度のプレイゾーン利用者数(98,566人)は前年度比120.8%、スポーツゾーン貸出利用者数(5,089人)は前年度比155.7%となり、コロナ禍の入場制限が緩和されたこと等により利用者が増加した。経年劣化により使用不能となった遊具の更新やタブレット受付システムの導入準備を実施した。

5 令和6年度末までの事業計画

スポーツを通じた子育てと健康づくりの支援を図るため、指定管理者と連携し、成長段階に応じて必要な身体能力を確保できる遊具を配置したプレイゾーンの運営やスポーツゾーンにおける各種運動教室を実施する。また、タブレット受付システムの導入により、スタッフがプレイゾーンやスポーツゾーンの活動に更に注力できる環境を整えるとともに、利用者の満足度向上に努める。加えて、市民利用率向上のための方策検討を行う。

以下、決算常任委員会 決算審査用

● 事業における課題

藤枝市民のみならず、近隣市からも多くの来場者があり、プレイゾーンの需要と必要性が増している状況で、休日などは、プレイゾーンの待ち時間が長いことや、利用者ニーズに十分対応できているかが課題となっている。

利用が多い蓮華寺池公園に隣接し、土日祝日など駐車場が利用しにくく、近隣道路の渋滞も課題である。

● 令和7年度 予算編成に向けて

利用者の待ち時間軽減措置として、予約システムの検討や、待ち時間の情報発信なども検討されたい。

また、利用者の満足度を高めるためにも、タブレット受付システム導入による利便性の向上だけでなく、利用者の意見を反映した新たなプログラムの導入や設備の改善を求めたい。蓮華寺池公園という藤枝市の最高の場所に位置している利点をさらに活かし、より活発な施設となるよう求めたい。

事業名： 発達支援事業費	担当： こども未来応援局 こども発達支援センター	決算書ページ P. 180～181	3 款 3 項 6 目	備考No. 3 (1)
		市政報告書ページ P. 163～164		

1 令和5年度 事業内容及び目的(数値目標があれば記入)		
【事業内容】 ①発達に課題のある児童の発達相談及び心理・発達検査 ②在宅支援事業 ③保護者・家族・支援者事業 ④サポートファイルの配布		
【目的】 発達に課題のある児童とその保護者に対する早期支援(家庭支援の向上と保護者のメンタルケア)、および保護者と関係機関が児童の支援情報等を共有することにより児童の福祉の向上を図るため。		
【数値目標】 第6次総合計画 R5年度目標値 累計配布数 340人		
2 事業実施期間	令和5年度 事業開始月及び終了月	
H21～	令和5年4月～令和6年3月	
3 令和5年度予算額(円)	令和5年度決算額(円)	不用額(円)
10,000,000	8,879,683	1,120,317
4 令和5年度 進捗状況及び成果		
①発達に課題のある児童の発達相談及び心理・発達検査 特別支援教育教諭・保育士・公認心理師による相談(549回)や検査(303人)により、支援方法を再確認・検討することができた。		
②在宅支援事業 親子通園40回(実人員4人)・並行通園119回(実人員30人)開催し、対象児の早期支援につなげることができた。		
③保護者・家族支援事業 家庭支援の向上を目的とした学びの場として、ペアレント・プログラム(保護者8人)、ペアレント・トレーニング(保護者8人)、親塾、病院連携事業を開催し、適切な対応を学ぶことにより、対象児とのより良い関係づくりの構築を図ることができた。		
④サポートファイルの配布 新規配布は99人。累計684人で、配布数の目標は達している。		
5 令和6年度末までの事業計画		
□令和5年度事業の全てを継続して実施するほか、②在宅支援事業における「親子通園・並行通園」は委託から市の直営に変更し、園内支援の充実を図るために積極的に園訪問を行うとともに、利用児童の担任の教室参加を積極的に実施していく。		
□また、③保護者・家族支援事業における「病院連携事業」では、言語聴覚士(ST)による個別相談(年2回・対象児童8人)を追加する。		

以下、決算常任委員会 決算審査用
● 事業における課題 発達に課題のある人は年々増加しており、その対応には専門家の知識が不可欠であり、個々の対応をしていただいていることは評価したい。 在宅支援事業については実施回数はあるものの、発達に課題のある児童が確実に支援を受けられるような周知や利用促進が必要である。 また、保護者・家族支援事業についても、参加機会を増やすための周知と参加促進が必要である。
● 令和7年度 予算編成に向けて 早期発見や就職支援も含めて長期的なフォローアップが重要であることから、健康推進課、教育委員会との連携も含め、関係機関との協力体制を強化し取り組まれない。
拡大1 継続10

事業名： はたちの集い開催経費	担当： 教育部 生涯学習課	決算書ページ P. 282～283	10 款 4 項 3 目	備考No. 2 (1)
		市政報告書ページ P. 370		

1 令和5年度 事業内容及び目的(数値目標があれば記入)		
二十歳という人生の大きな節目を迎えた若者に対し、大人としての社会的責任と自覚を促すとともに、自ら生き抜こうとする若者を支え、寄り添い、励ますことで、生まれ育った地元「藤枝」への愛着と感謝の気持ちを醸成することを目的として「はたちの集い」を実施した。		
2 事業実施期間 (※S30) ～	令和5年度 事業開始月及び終了月 令和6年1月7日	
3 令和5年度予算額(円)	令和5年度決算額(円)	不用額(円)
2,570,000	2,165,836	404,164
4 令和5年度 進捗状況及び成果		
開催日:令和6年1月7日(日) 市内10会場で分散開催 記念品:名刺入れ 参加状況:対象者1,265人、出席者969人、出席率76.6%		
令和5年度は、市制70周年・サッカーのまち100周年を迎える年の最初のイベントとして開催。両周年記念ロゴ等を用いたオリジナルデザインのARフォトフレーム4種の提供や藤枝MYFCに協力いただきホーム開幕戦の観戦ペアチケットのサプライズプレゼントを用意した。		
5 令和6年度末までの事業計画		
二十歳の門出を祝うだけでなく、将来のUIJターンや若者や女性が活躍でき、自己実現できるまちであることをアピールする等、市の施策を効果的にアプローチする場へ進化させる。		
現段階での開催計画(案) 開催日:令和7年1月12日(日) 市内10会場で分散開催 記念品:多機能ペン(ボールペン4色+シャープペンシル) 対象者:1,400人見込み		

以下、決算常任委員会 決算審査用

● 事業における課題

令和5年度は、前年同様、感染防止対策を講じての開催で、式典のみとし、来賓、恩師の出席制限や、対象者が賑わい好評のフリートーク、アトラクションも中止となったが、76.6%の参加率であった事は評価したい。

進学や就職で遠方に住んでいる場合など、参加が難しいことも課題である。

開催の運営担当を、コロナ前のように地元自治会等に戻すか検討が必要。

● 令和7年度 予算編成に向けて

はたちの集いは、市や地域との繋がりを改めて認識するような行事と捉え、若者に地元定着やUIJターン等を直接周知する絶好の機会であるため、地元企業との合同企画イベントの開催など、人口対策や働き手の確保に向けて若者のUIJターンを図る仕組みを検討されたい。

また、遠方に住む若者や当日参加が難しい人を考慮し、オンラインで参加出来る仕組みづくりの検討や、若者の意見を取り入れた式典を検討されたい。

事業名： 適応指導教室等活動事業費	担当： 教育部 教育政策課	決算書ページ P. 270～271	10 款 1 項 3 目	備考No. 7 (2)
		市政報告書ページ P. 342		

1 令和5年度 事業内容及び目的(数値目標があれば記入) 不登校児童生徒が年々増加している中、適応指導教室(藤の子教室)において、全ての子どもへの学びを保障するため、また、居場所を確保するため、学校復帰を含む社会的自立に向けて、一人一人に寄り添った学習指導や集団への適応指導を行っている。また、不登校児童生徒の保護者と、面談や電話による教育相談を実施している。そして、月に1回は、学校との情報交換を実施し、連携を図っている。ひきこもり状態に近い児童生徒に対しては、心理士の資格をもつ家庭訪問相談員2名が分担をして家庭訪問をし、児童生徒と社会とのつながりを保っている。		
2 事業実施期間 平成元年～	令和5年度 事業開始月及び終了月 令和5年4月～令和6年3月	
3 令和5年度予算額(円) 15,063,000	令和5年度決算額(円) 14,259,206	不用額(円) 803,794
4 令和5年度 進捗状況及び成果 適応指導教室(藤の子教室)に、適応指導教室指導員5名を配置した。1日7時間、年間221日の勤務により、子どもへのきめ細やかな指導をすることができた。また、臨床心理士1名の43週勤務により、不登校児童生徒が適応指導教室へ入級する際のアセスメントや、入級後のソーシャルスキルトレーニングを充実させることができた。年度末には、定員近くの28名(小学生6名、中学生22名)の通級があった。また、不登校児童生徒の保護者との面接相談件数は259件、電話相談件数は295件であった。家庭訪問相談員については、2名で約105時間の対応を行った。		
5 令和6年度末までの事業計画 ・適応指導教室指導員を1日7時間、年間221日の勤務で、不登校児童生徒へのきめ細やかな指導を実施する。また、不登校児童生徒の保護者への教育相談を丁寧に実施する。 ・臨床心理士1名の43週勤務により、アセスメントや入級後のソーシャルスキルトレーニングを充実させる。 ・家庭訪問相談員2名の上限200時間の勤務により、ひきこもり状態に近い児童生徒の家庭訪問を実施し、社会とのつながりを保つ。		



以下、決算常任委員会 決算審査用 ● 事業における課題 過去5年間の不登校児童の推移は、小学校、中学校で増加傾向にあるのは大きな課題である。 また、保護者との面談相談件数や電話相談件数は、今後も増加すると考えられ対応が課題である。
● 令和7年度 予算編成に向けて 訪問時間の確保や保護者との相談が今後増加する事を見据え、相談員の増員や、適応指導教室の利用を必要とする児童の人数や保護者の声によりさらなる拡充が必要となる場合には、予算拡充も検討されたい。 また、臨床心理士については、さらなる勤務週数の拡充や、新たな心理カウンセリングのプログラムの導入を検討されたい。
拡大3 継続8

事業名： 通級指導教室活用事業費	担当： 教育部 教育政策課	決算書ページ P. 270～271	10 款 1 項 3 目	備考No. 8 (6)
		市政報告書ページ P. 344		

1 令和5年度 事業内容及び目的(数値目標があれば記入) 特別な支援を要する児童生徒が年々増加している中、通常学級に在籍している発達障害を持つ児童に対し、一人一人の状況に応じた指導を行う。また、通級指導教室担当教員が他校へ出向いて指導を行う「サテライト方式」を取り入れ、より多くの児童が指導を受けられる体制も整備した。		
2 事業実施期間 H24～	令和5年度 事業開始月及び終了月 令和5年4月～令和6年3月	
3 令和5年度予算額(円) 6,284,000	令和5年度決算額(円) 6,055,952	不用額(円) 228,048
4 令和5年度 進捗状況及び成果 審議により令和5年度は10教室において203人への通級指導を行った。また、高洲小をサテライト校として教室を増設した。通級指導教室設置校に在籍していない児童や保護者の送迎が難しい児童にも対応でき、一人一人の状況に応じた指導の充実を図ることができている。10教室に5人と、サテライト校に2人、合計7人の指導員を配置し、よりきめ細やかな対応が可能となった。		
5 令和6年度末までの事業計画 <ul style="list-style-type: none"> ・中学校通級指導教室開設：藤枝中学校にLD通級「さくら」開設 ・中学校サテライト校6校6教室開設：岡部中、高洲中、大洲中、瀬戸谷中、青島北中、西益津中 ・指導員1名配置：きめ細やかな対応の充実 ・中学校進学後も継続した指導支援を受けられる体制整備 		

以下、決算常任委員会 決算審査用
● 事業における課題

サテライト方式により指導が受けやすくなった点は評価したい。今後、対象者が増加した場合、現行の指導体制が維持できるかが課題である。

● 令和7年度 予算編成に向けて

様々な発達の課題に対して専門的な指導ができる体制はさらに必要になっていくと考え、指導員の増員など体制強化を図りたい。
また、通級指導を受ける児童のニーズに応えるため、様々な体制を整え、さらなる充実を図りたい。

事業名： 食と農アンテナエリア形成推進事業費	担当： 産業振興部 企業立地戦略課	決算書ページ P. 232～233	7 款 1 項 2 目	備考No. 8 (3)
		市政報告書ページ P. 251		

1 令和5年度 事業内容及び目的(数値目標があれば記入) 仮宿地区においては、地元住民で組織する「仮宿藤枝オリーブ産地化事業推進協議会」、「㈱クシアファーム」及び「藤枝市」の3者による連携協定を平成29年2月に締結し、オリーブ産地化事業を核とした地域の活性化や賑わいづくりに取り組んでいる。 このような中で、藤枝市ならではの「食と農」に特化した新産業の誘導・集積を図るべく、本市と連携協定を締結する㈱アトラエ提供の人材マッチングによる専門人材を本市の「食農まちづくりコーディネーター」に任命し、食農産業関連の首都圏企業等の企業訪問を実施した。 また、事業エリアに隣接する静岡大学農学部藤枝フィールドの多様な知見をまちづくりに活かすため、産学官連携推進事業として交流人口拡大に繋げる「フジの新品種開発」に同大学とともに取り組んだ。		
2 事業実施期間 令和4年～	令和5年度 事業開始月及び終了月 令和5年4月～令和6年3月	
3 令和5年度予算額(円) 2,000,000	令和5年度決算額(円) 1,701,110	不用額(円) 298,890
4 令和5年度 進捗状況及び成果 ○イベント関係 ・広幡ふれあいまつり出店(11月) ・オリーブ収穫祭(11月) ・地元感謝デー餅つき大会(1月) ○企業訪問 ・首都圏企業(1社) ・地方企業(1社) ○産学官連携推進事業 ・蓮華寺池公園で採取したフジの品種改良(交雑育種)の実施 ・種子や苗から変異性が認められるフジを抽出・育成、形態観察の実施		
5 令和6年度末までの事業計画 広幡ふれあいまつりへの出店やオリーブ収穫祭などのイベントを継続的に参画するとともに、仮宿道の駅と連動させたエリア全体構想の策定を目指す。 また、食農産業関連企業の誘致に向けて、食農コーディネーターの人脈を活用した企業訪問を実施するとともに、首都圏企業に本市を知ってもらう誘致ツアーを本市内で実施する。 フジの新品種開発については、来年度以降も静大で形態観察を続けるが、産学官連携事業としては本年度が最終年度となる。新品種の開発には時間を要することから、食と農アンテナエリア形成を進める中で経過を見守っていく。		



以下、決算常任委員会 決算審査用 ● 事業における課題 仮宿地区の住民が関わり事業推進していることは評価したい。企業訪問は、首都圏企業および地方企業の2社にとどまり、企業誘致や連携の進展が課題である。また、広幡の「ふれあいまつり」「オリーブ収穫祭」等のイベントでは、具体的な効果が現状では明確になっていない。 フジの新品種開発は期待したいが植物開発は時間を要するため、継続的に取り組めるかが課題である。 ● 令和7年度 予算編成に向けて 食農まちづくりコーディネーターの人脈を活用した企業訪問を重点的に実施し、企業誘致活動の強化を検討するとともに、人材マッチングや大学との連携を図り、藤枝市の「食と農」の強みをアピールするとともに、説明会等を積極的に開催し、企業誘致活動のさらなる推進を図りたい。 また、フジの新品種開発の成果も大いに期待したい。
継続11

事業名： 有害鳥獣捕獲事業費	担当： 産業振興部 農林基盤整備課	決算書ページ P. 222～223	6 款 2 項 1 目	備考No. 3 (1)
		市政報告書ページ P. 239		

1 令和5年度 事業内容及び目的(数値目標があれば記入) イノシシやニホンジカ等の鳥獣による農作物等への被害を軽減するため、捕獲に対する報償費や市内猟友会に対する捕獲活動委託料、捕獲用箱わなの購入等の事業を実施している。(有害鳥獣による農作物被害額：R5年度目標 10,875千円)		
2 事業実施期間 —	令和5年度 事業開始月及び終了月 令和5年4月～令和6年3月	
3 令和5年度予算額(円) 11,800,000	令和5年度決算額(円) 9,467,196	不用額(円) 2,332,804
4 令和5年度 進捗状況及び成果 捕獲実績はイノシシ 389頭、ニホンジカ 72頭、サル95頭、ハクビシン等中小動物142匹、カラス 34羽となっており、国庫補助による報償費のほか、市単独事業としても報償費を支出した。 また、市内猟友会の捕獲業務委託費のほか、被害が増えているシカ用の捕獲檻の購入を行った。(有害鳥獣による農作物被害額：R5年度実績 8,721千円)		
5 令和6年度末までの事業計画 令和6年度も引き続き、猟友会と連携し、農作物被害軽減のための捕獲活動や必要な備品等の整備を行っていく。		

以下、決算常任委員会 決算審査用
● 事業における課題

有害鳥獣の問題は、山間部のみならず、市街地にも影響を及ぼし始めており、さらなる対策強化が課題である。

猟友会の会員も高齢化が著しく、担い手不足も課題であり、新規メンバーの確保や若手ハンターの育成も課題である。

国指定特別天然記念物であるニホンカモシカの取り扱いの対策も課題である。

● 令和7年度 予算編成に向けて

若手猟師の育成や新規参加者を増やす為の研修や補助金創設や、捕獲に対する報償費の増額を検討されたい。

また、ドローンやセンサー技術等、IoTを活用した鳥獣の動向把握や、より効率的な捕獲方法の導入に向けた検討をされたい。増加傾向にある鹿への対策も強化されたい。

事業名： 竹林対策事業費	担当： 産業振興部 農林基盤整備課	決算書ページ P. 224～225	6 款 2 項 1 目	備考No. 4 (1)
		市政報告書ページ P. 240		

1 令和5年度 事業内容及び目的(数値目標があれば記入) 放置竹林を皆伐し、樹木の植栽による林種転換を図るとともに、皆伐後の公益的機能の再生のため、竹の伐採などに係る経費を補助する。併せて、若竹狩り等のイベントを開催し、竹林整備や竹の利活用に係る理解の推進を図る。 (放置竹林解消面積：R5年度末目標 38.5ha ※2010年度からの累計)		
2 事業実施期間 H17 ～	令和5年度 事業開始月及び終了月 令和5年4月～令和6年3月	
3 令和5年度予算額(円) 1,200,000	令和5年度決算額(円) 658,527	不用額(円) 541,473
4 令和5年度 進捗状況及び成果 助宗、寺島、谷稲葉地区の竹林を伐採し、広葉樹への林種転換を図ることで、0.28haの放置竹林を解消した。(放置竹林解消面積：R5年度末実績 35.7ha ※2010年度からの累計) また、5月に開催した若竹狩りイベントでは、予定していた竹林が生育不良により竹の伐採体験は中止となったが、併せて開催したメンマ作り教室には13名が参加し、竹の利活用に対する啓発を行うことができた。		
5 令和6年度末までの事業計画 令和6年度からは、竹林対策事業費の補助率を40%から60%(急傾斜地は60%から80%)へ増額し、負担の大きな初期の伐採費用のさらなる負担軽減を図る。 また、チラシの作成や市広報誌における特集掲載、出前講座の新設など、補助制度の利用促進のための周知を行う。		

以下、決算常任委員会 決算審査用
● 事業における課題

一部の地区では竹林の減少ができたとのことだが、まだまだ市内全域に放置竹林が拡大しており課題となっている。

活動団体については、1団体の実績に留まり、さらに構成員の高齢化も課題である。

● 令和7年度 予算編成に向けて

活動団体が少ない現状の中、団体の負担軽減のため、申請書作成のフォローアップ等の支援も図られたい。また、竹をチップ化し、飼料、肥料、土壌改良材への研究等、竹の資源化を図られたい。

幼竹時に処理する方法も検討されたい。

団体に頼るのではなく、その他の実施方法を検討されたい。

事業名： 現年発生単独災害復旧事業費（市単）	担当： 産業振興部 農林基盤整備課	決算書ページ P. 298～299	11 款 1 項 1 目	備考No. 1 (1)
		市政報告書ページ P. 406～407		

1 令和5年度 事業内容及び目的(数値目標があれば記入) 台風や集中豪雨などによる補助採択が難しい倒木や崩土などの自然災害が発生した場合において、復旧工事や崩土除去等を迅速に実施し、2次災害の防止や営農・林業施業への支障を低減させる事業として実施する。		
2 事業実施期間 —	令和5年度 事業開始月及び終了月 令和5年4月～令和6年3月	
3 令和5年度予算額(円) 16,000,000	令和5年度決算額(円) 15,992,900	不用額(円) 7,100
4 令和5年度 進捗状況及び成果 令和5年6月の台風2号をはじめとする豪雨により被災した、農業水利施設の土砂撤去や農道・林道の崩土除去などを迅速に対応し、営農活動等に与える影響を最小限となるよう努めた。		
13 使用料及び賃借料 01 機械器具借上料 49件 9,993,500円 14 工事請負費 01 現年発生災害復旧工事費 10件 5,581,400円 15 原材料費 01 工事用材料費 2件 418,000円		
5 令和6年度末までの事業計画		

以下、決算常任委員会 決算審査用

● 事業における課題

災害対策について、水利施設の土砂や農道林道の崩土の除去等、スピード感をもった対応は評価したい。

● 令和7年度 予算編成に向けて

災害時における復旧は、迅速な対応が必要で、復旧が遅れることで、二次被害につながることも多々あり、引き続きの対応を求めたい。
被災箇所の事前把握は不可能に近い困難さがあるものと思われるが、復旧費と予防工事の差額を勘案した予算化の研究をされたい。

拡大4 継続6 その他1(災害後の対応は柔軟・迅速に)

事業名： 道路維持補修費	担当： 基盤整備局 道路課	決算書ページ P. 242～245	8 款 2 項 2 目	備考No. 1 (1)
		市政報告書ページ P. 269		

1 令和5年度 事業内容及び目的(数値目標があれば記入) 道路施設の補修や業務委託による法面の草刈り、路面清掃などを実施している。安全で快適な道路環境や排水等の機能保全を確保することを目的とする。		
2 事業実施期間 —	令和5年度 事業開始月及び終了月 令和5年4月～令和6年3月	
3 令和5年度予算額(円) 29,900,000	令和5年度決算額(円) 31,661,668円のうち道路課分 29,432,990	不用額(円) 467,010
4 令和5年度 進捗状況及び成果 ・手数料 さくら並木長寿命化対策 2件 ・委託料 清掃業務委託料 路面清掃 1件 機械器具等保守点検業務委託料 2件 道路付帯地除草作業委託料 3件 さくら並木管理業務委託料 1件 ・工事請負費 防草対策工事費 1件 地下道通報センサー設置工事費 1件		
5 令和6年度末までの事業計画 ・地下道通報センサー設置工事費 毎年実施している道路施設の維持・管理業務に加え、未設置箇所である築地地下道について設置を実施		

以下、決算常任委員会 決算審査用
● 事業における課題

路面清掃や保守点検を早期に実施していただいていることは評価したい。しかし、街路樹や植え込みの手入れが追いつかない場所も散見され、通行に支障が出ている箇所については課題と考える。
 また、白線が消えかかっていたり、地下道通報センサー設置工事は1件しか完了しておらず、未設置箇所が残っている点は課題である。

● 令和7年度 予算編成に向けて

特に歩道を覆うような草木に関しては、景観も重視し早急な把握・対応を求めたい。また、白線への対応とともに、全ての地下道への通報センサー設置を図られたい。さらに、さくら並木長寿命化対策として、瀬戸川、六間川土手の桜保護のため、消毒、剪定、施肥等を行っているが、施肥の時期等を含めて有効性を検討されたい。

事業名： 空き家等対策推進事業費	担当： 都市建設部 住まい戦略課	決算書ページ P. 252～253	8 款 4 項 2 目	備考No. 3(1)
		市政報告書ページ P. 302～303		

1 令和5年度 事業内容及び目的(数値目標があれば記入)		
【目的】 空き家等対策計画の基本理念である「安全・安心で活気のあるまちづくり」を実践するため、適切な管理が行われていない空き家や附属する土地・工作物などに対し、適切な管理・活用を推進する。		
【事業内容】 法律及び条例に基づく空き家対策を行ったほか、通知等に対して反応のない空き家所有者との面談や静岡県との共催で空き家に関するワンストップ無料広域相談会を実施した。		
2 事業実施期間	令和5年度 事業開始月及び終了月	
H27～	令和5年4月～令和6年3月	
3 令和5年度予算額(円)	令和5年度決算額(円)	不用額(円)
1,500,000	205,685	1,294,315
4 令和5年度 進捗状況及び成果		
【空き家広域相談会】 11月11日、空き家に関するワンストップ無料広域相談会開催(7組参加)		
【空き家所有者面談】 横浜市、川崎市ほか		
【特定空家等】 特定空家 2件認定(志太4丁目、八幡)		
【緊急安全措置】 1回実施(職員によるもので所有者への実費請求なし)		
5 令和6年度末までの事業計画		
【空き家広域相談会】 11月30日(土)に、空き家に関するワンストップ無料相談会(司法書士、税理士、建築士、宅建士等)を市役所会議室で開催する。		
【空き家所有者面談】 通知等で反応のない空き家の所有者宅に訪問し、面談を行う。		
【特定空家等】 特定空家及び管理不全空家の認定を行う。		

以下、決算常任委員会 決算審査用

● 事業における課題

不用額中100万円は緊急代執行が未執行のためと確認し、理解する。
個人の財産ゆえに公が解消することが公平・平等性にかけることだが、近隣住民への影響を考慮すると早期解決につながる動きは必要であると考え。特定空家に認定されていないが放置され、限界に近い建物について、周辺の住居者は不安を抱えていることも重要な課題である。

● 令和7年度 予算編成に向けて

空き家は今後も増えていくと思われ、所有者との話し合い等、増やさないことや早期解消にむけて、特定空家の認定プロセスを強化されたい。
また、空き家の除草等、持ち主の徹底的な追求と除去依頼で、清潔で安全安心な空き家を維持されたい。
さらに、危険性の除去のためには、代執行も辞さず、毅然とした対応を求めたい。